

グリーンボンド / グリーンボンド・プログラム 外部レビューフォーム

セクション1. 基本情報

| | |
|-------------------------|---------------------------------|
| 発行体名: | 空港施設株式会社 |
| グリーンボンド又は フレームワークの名称 | 空港施設株式会社 第3回無担保社債（適格機関投資家限定） |
| 外部レビュー者名: | 株式会社 日本格付研究所 |
| 本フォーム記入日: | 2020年11月30日 |
| レビュー公表日: | 2020年11月30日 |

セクション 2. レビューの概要

レビュー対象

本レビューでは、以下の要素について審査し、グリーンボンド原則との適合性を確認した。:

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定プロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポートニング |

ROLE(S) OF Independent External REVIEW PROVIDER

- | | |
|------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> セカンドオピニオン | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input checked="" type="checkbox"/> スコアリング/格付け |
| <input type="checkbox"/> その他: | |

注:複数のレビュー、異なる提供者がいる場合、レビューごとに個別のレビューフォームを提供してください。

レビューのサマリー 及び 評価レポート全文へのURLリンク

空港施設株式会社は1970年2月に設立された、東京国際空港(羽田空港)を中心とし、北は新千歳空港から南は那覇空港に至る国内主要空港における空港に必要な施設と機能の建設、運営管理を主業とする会社である。いずれも空港における多目的総合ビル、格納庫および整備工場棟の賃貸を行う不動産賃貸事業のほか、地域冷暖房を提供する熱供給事業(グループ会社である東京空港冷暖房株式会社によって実施)、上下水道施設や共用通信サービスの提供、遊休地での太陽光発電等を行う給排水運営その他事業を営む。近年は空港における各種事業のほか、空港外の一般ビル賃貸事業にも進出している。

空港施設は企業理念として「革新と創造を不断に生み、時代の変化と要請を先取して発展するとともに、企業価値を向上させること」や「顧客に喜ばれ社会に認められる価値を常に提供し、頼られ信用される会社になること」等を掲げており、それらの経営理念のもと、持続可能な社会の実現に向けたESGへの誠実な取り組みおよびSDGsへの貢献を目標とした各種の施策を実施している。

今回評価対象となる私募債(本私募債)の資金使途は自家消費用太陽光発電設備の建設資金に対する新規投資である。同設備は設置および稼働に関して必要な対応が行われているほか、年間CO₂排出削減量は約585t-CO₂/年と見込まれる。また、空港施設は適切な許認可申請や社内における影響把握・対応体制の構築を通じ、事業実施に際して想定される環境への負の影響を特定し、適切な回避・緩和策を講じている。以上より、JCRは本私募債の資金使途について、環境改善効果を有すると評価している。

資金使途の選定については、グリーンファイナンス・フレームワークに定められたプロセスに従って評価・選定が行われ、空港施設の経営陣によって承認が行われる。本私募債によって調達された資金は自家消費用太陽光発電設備の建設資金に全額が紐付けられるほか、追跡管理および内部統制にかかる体制についても十分に構築されている。資金の充当状況および環境改善効果にかかるレポート内容についても適切なものとなっている。したがって、JCRは本私募債について、調達資金に関する管理運営体制が確立されているとともに、投資家に対する透明性を有するものであると評価した。

この結果、本私募債について、JCRグリーンファイナンス評価手法に基づき、「グリーン性(資金使途)評価」を“g1”、「管理・運営・透明性評価」を“m1”とした。この結果、「JCRグリーンボンド評価」を“Green 1”とした。

評価レポート全文へのURLリンクは以下をご参照。
<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

セクション 3. レビューの詳細

レビュー者は、できる限り以下の情報を、コメントの枠を使用し、できる限り提供することが推奨される。

1. 資金使途

本項目に係るコメント欄：

a. プロジェクトの環境改善効果について

- i. 資金使途の100%が自家消費用太陽光発電設備の建設資金に対する新規投資であり、環境改善効果を有する。
- ii. 資金使途は、グリーンボンド原則または環境省のグリーンボンドガイドラインに定義されているグリーンプロジェクトのうち、「再生可能エネルギー」に該当する。

b. 環境に対する負の影響について

空港施設は、本プロジェクトに関して、環境に対する負の影響について、法令および諸規則を遵守するほか、同社に設置された工事等審査委員会における検討等を行っており、適切な許認可申請や社内における影響把握・対応体制の構築によって環境に対する負の影響を特定し、適切に回避・緩和措置を講じている。

GBPにおける資金使途の分類:

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再生可能エネルギー | <input type="checkbox"/> エネルギー効率 |
| <input type="checkbox"/> 汚染防止及び管理 | <input type="checkbox"/> 生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理 |
| <input type="checkbox"/> 陸上及び水生生物の多様性の保全 | <input type="checkbox"/> クリーン輸送 |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源および廃水管理 | <input type="checkbox"/> 気候変動への対応 |
| <input type="checkbox"/> 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス | <input type="checkbox"/> グリーンビルディング |
| <input type="checkbox"/> 発行時点では明らかでなかったが、現時点においてGBP分類に該当することが予想される、または、まだGBP分類に含まれていないが適格グリーンプロジェクト分野と思われるもの | <input type="checkbox"/> その他 |

GBP以外のタクソミー(プロジェクト分類)を使用している場合はそれを特定すること。:

2. プロジェクトの評価と選定プロセス

本項目に係るコメント欄：

空港施設は資金使途について、明確な環境面での目標、プロジェクトの選定基準およびプロセスを定めている。
当該事項は、JCRによる評価レポートの中で開示されている。

評価と選定

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体の環境面での持続可能性に係る目標が定められている | <input checked="" type="checkbox"/> 対象事業が選定基準分類に適合していることを決定するプロセスが文書化されている |
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドの資金使途としての適格プロジェクト基準が定義され、透明性が確保されている | <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施に伴うESGリスクの可能性が特定され、管理されるプロセスが文書化されている |
| <input checked="" type="checkbox"/> 事業の評価と選定基準の概要が公表されている | <input type="checkbox"/> その他 |

責任及びアカウンタビリティに係る情報

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 評価・選定基準は外部からのアドバイスまたは検証を受けている | <input checked="" type="checkbox"/> 社内で評価している |
| <input type="checkbox"/> その他 | |

3. 調達資金の管理

本項目に係るコメント欄：

- a. 本私募債で調達される資金は本発電設備の建設資金に対する新規投資に全額充当される予定であり、これ以外の目的に充当される予定はない。また、本私募債は当該建設資金の支払時期直前に合わせて発行され、調達した資金は速やかに充当が行われる予定である。
- b. 本私募債で調達される資金は財務部によって追跡管理が行われる。本発電設備の建設に関する支払は担当部署の部長によって承認ののち、支払が行われる。本発電設備の建設に関する稟議書や報告書、請求書、領収書といった支払に関する証憑に基づき、財務部は追跡管理を行う。
- c. 支払に関する証憑は本私募債の償還期間まで適切に保存される予定である。
- d. 本私募債で調達される資金の追跡管理については年次の監査対象となっており、内部監査および外部監査によって支払に関する証憑が確認される予定である。
- e. 本私募債で調達される資金は本発電設備の建設資金に対する新規投資に全額充当されるまでの間、当座預金によって管理される予定である。未充当資金の管理・運用方法については本私募債発行時の発行書類等で投資家に開示される予定である。

調達資金の追跡管理：

- | |
|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドの調達資金は分別管理され、または適切な方法で発行体によって追跡管理されている。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未充当資金の一時的運用方法について、開示されている。 |
| <input type="checkbox"/> その他 |

追加開示事項：

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 新規投資への充当のみ | <input type="checkbox"/> 既存・新規投資両方への充当 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 個別の支出に充当 | <input type="checkbox"/> ポートフォリオベースの支出に充当 |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオバランスを開示 | <input type="checkbox"/> その他 |

4. レポーティング

本項目に係るコメント欄：

a. 資金の充当状況にかかるレポーティング

空港施設は、発行時における調達資金の充当状況について、ウェブサイト上で開示する予定である。また、調達資金が全額充当されるまでの間、投資家に対して未充当金額を年次で開示する予定である。本私募債償還までの間に対象資産の処分等が発生し、再充当の必要がある場合には、空港施設は投資家にその旨を速やかに開示するとともに、適格性基準を満たす他のグリーンプロジェクトに資金を再充当する予定である。本私募債で調達した資金を再充当する場合、空港施設は調達資金全額の充当が完了するまでの間、投資家に対して年次で開示を行う予定である。

b. 環境改善効果にかかるレポーティング

空港施設では、調達資金が充当された太陽光発電事業について、環境改善効果にかかるレポーティングを行う予定である。レポーティングは以下の指標をKPI(key performance indicator)とし、発行時に出力規格に基づく理論値をウェブサイト上で開示する。加えて投資家に対しては本私募債償還までの間、半年毎に実績値を開示する予定である。

- ・グリーンプロジェクトによるCO₂排出削減量
- ・グリーンプロジェクトによる発電量

資金使途のレポーティング：

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 個別プロジェクト・ベース | <input type="checkbox"/> プロジェクトのポートフォリオ・ベース |
| <input type="checkbox"/> 個別債券への紐づけ | <input type="checkbox"/> その他 |

レポーティング情報：

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 充当金額 | <input type="checkbox"/> 投資額に占めるグリーンボンドによる資金充当の割合 |
| <input type="checkbox"/> その他： | |

頻度：

- | | |
|--|--------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 年に一度 | <input type="checkbox"/> 半年に一度 |
| <input type="checkbox"/> その他： | |

インパクトレポーティング：

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 個別プロジェクト・ベース | <input type="checkbox"/> プロジェクトのポートフォリオ・ベース |
| <input type="checkbox"/> 個別債券への紐づけ | <input type="checkbox"/> その他 |

頻度：

- | | |
|---|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 年に一度 | <input type="checkbox"/> 半年に一度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> その他： 投資家に対しては半年に一度、 一般には発行時に出力規格に基づく理論値をウェブサイト上で開示 | |

レポーティング情報（理論値または実績値）：

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> GHG 排出量 / 削減量 | <input type="checkbox"/> エネルギー削減量 |
| <input type="checkbox"/> 水使用削減量 | <input checked="" type="checkbox"/> その他ESG指標 ・ グリーンプロジェクトによる発電量 |

開示方法

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 財務諸表における公表 | <input type="checkbox"/> サステナビリティレポートにおける公表 |
| <input type="checkbox"/> アドホック（非定期）発行物における公表 | <input checked="" type="checkbox"/> その他: ・ ウェブサイトにおける公表 |
| <input type="checkbox"/> レポーティングの外部レビュー | |

有用なリンク

| | |
|--------------------|---|
| 空港施設株式会社 Webサイト | http://www.afc.jp/index.html |
| JCRのグリーンファイナンス評価手法 | https://www.jcr.co.jp/greenfinance/ |

外部レビューを受けた場合、その種類

- | | |
|-------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> セカンド・オピニオン | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input checked="" type="checkbox"/> スコアリング/格付け |
| <input type="checkbox"/> その他: | |

レビュー提供者: 株式会社 日本格付研究所

公表日: 2020年11月30日

グリーンボンド原則に定められた、独立レビュー業者の役割

1. **セカンド・パーティ・オピニオン**：環境に関する専門知識を持ち、発行体から独立した機関は、セカンド・パーティ・オピニオンを出すことができる。そのような機関は、グリーンボンドフレームワークに関する発行体のアドバイザーからの独立性や、情報障壁など適切な手順を機関内に設け、セカンド・パーティ・オピニオンの独立性を保証することが必要である。セカンド・パーティ・オピニオンは通常グリーンボンド原則への準拠に関する評価を伴い、特に、発行体の包括的な目標、戦略、環境に関する持続可能性に関する方針および（または）プロセスおよび資金使途となるプロジェクトの環境に関する持続可能性の評価が含まれる。
2. **検証**：発行体は、ビジネスプロセスに関するおよび（または）環境基準についての設定された基準に関する第三者検証を受けることができる。検証は内部または外部基準または発行体による目標に沿っているかにフォーカスする。また、対象資産の環境に関する持続可能な特徴の評価は"検証"と呼ばれ、外部基準を参照することができる。発行体の資金管理、グリーンボンドによる調達資金の配分に関する内部追跡システム、環境へのインパクトまたは、グリーンボンド原則への準拠に関する保証または証明も"検証"と呼ぶことができる。
3. **認証**：発行体は、グリーンボンドフレームワークに関連したグリーンボンドまたは資金使途は、認識されている外部グリーン標準・ラベルの認証を受けることができる。標準またはラベルは、特定の基準を定義し、その定義は認証基準に沿っているかを証明できる能力を有し、認定された第三者機関によって、その基準に沿っているかどうかを検査される。
4. **グリーンボンドスコアリング・レーティング**：発行体は、グリーンボンドフレームワークに関連したグリーンボンドまたは資金使途は、スコアリング・レーティング手法を有している専門調査会社や格付機関といった第三者によって評価もしくは調査されることができる。成果物は、環境改善のデータ、グリーンボンド原則に準じたプロセスまたはその他2度目標などのベンチマークにフォーカスしたものが考えられる。スコアリング・レーティングは、重要な環境リスクを反映しているとしても信用格付とは明確に異なる。